

Mr. & Mrs. スミス

2005(平成17)年9月8日鑑賞(試写会・ナビオ TOHO プレックス)

★★★★



監督＝ダグ・リーマン／脚本＝サイモン・キンバーグ／出演＝ブラッド・ピット／アンジェリーナ・ジョリー／ヴィンス・ヴォーン／ケリー・ワシントン／アダム・プロディ（東宝東和配給／2005年アメリカ映画／118分）

第2章

映画は楽しめるのが一番！

……映画は企画の面白さが勝負！ リッチだが平凡な、そして倦怠期を迎えた夫婦には互いに「プロの暗殺者」という驚くべき顔が……。しかもそのターゲットが同一人物とされ、現場で鉢合わせすることになったら、それ以降の2人の運命は……？ 最高の美男、美女を主役に据え、ラブ・コメディとハードアクションを融合させ、ウソと真実をゴチャ混ぜにしている中、2人がたどりつく結末は……？ 徐々に面白いハリウッド映画！ こういう映画は理屈抜きで楽しまなくちゃ……。

企画の面白さ その1

この映画の面白さが企画にあることは明らか。その面白さの第1はタイトル。Mr. & Mrs. スミスという苗字も、そしてジョン、ジェーンという男女の名前も、アメリカではもっともポピュラーなもの。日本風に言えばMr. & Mrs. 山田さんちの、太郎君と花子さん（山田太郎・花子夫妻）とも言うべきもの……？

しかして、世紀の大スター夫婦が、こんな平凡な名前を名乗っているのは何のため……？

企画の面白さ その2

2人が運命的に出会い、情熱的に愛し合い、そして結婚を決意したのは、本心それともカムフラージュ……？ それが第2のポイント。結婚生活を5～6年続ける中、2人はカウンセリングに通わなければならないような倦怠期を迎えてい

るが、その原因はナニ……？

企画の面白さ その3

2人とも客観的に超一流、そして主観的にも自信満々のプロの殺し屋。ちなみに物語の進行中、互いの過去の実績すなわち殺しの人数を公表しあうシーンがあるので、それにも注目！

こんな2人だから、2人ともそのウラ稼業においては、それまで失敗なしの挫折知らず。したがって逆に、失敗した時のショックは大きいはず……？

そしてそんな2人の失敗の原因が、こともあろうに自分の夫や妻にあったとしたら……？

企画の面白さ その4

他人の夫婦喧嘩は激しいほど面白いもの……？ 互いの本性が見えるまでの導入部（？）もチラホラと期待をもたせる仕掛けで面白いが、本性が見えた後の美男・美女の夫婦喧嘩ぶり（？）は圧巻！ そしてこれはB級映画ではなく、天下のハリウッド大作映画だから、ふんだんに銃や爆弾を使っている。そしてまた、郊外にあるリッチな邸宅内のバトルやその壊し方もハンパではなく、これでもかこれでもかと徹底したもの。「破壊のあとに創造が……」というよく言われるフレーズも、この映画を観ていると十分納得できるというもの……？

2人の大スターへの心づかいも十分……？

パンフレットによれば、この映画への出演を決めたのはブラッド・ピットが先で、アンジェリーナ・ジョリーは難民の苦境を伝える自主制作ドキュメンタリープロジェクトが難航したことによって、幸運にもこの映画への出演が決まったとのこと。ブラッド・ピットとアンジェリーナ・ジョリーという、アクションもラブ・コメディもこなすことができるハリウッドの2大俳優が登場するこの映画は、企画の意図からも2人の役割はあくまでフィフティ・フィフティ。慣習上、Mr.の名前が先に出ているものの、映画の中での活躍は完全に男女平等の扱い。そんなバランス感覚にも注意しながらこの映画を観れば、2人の大スターへの心

づかいても十分理解できるはず……。

ジョンとジェーンは好対照

ジョンもジェーンもともに「殺しのプロ」だが、その心構えや仕事に対するアプローチの仕方は正反対……？ すなわち、ジェーンはチームワークを重視して事前に周到に準備し、計算したとおり緻密かつ冷静に実行。それに対してジョンは、もちろん事前準備はするもののそれはアバウトなもので、状況に応じてカンを働かせ、臨機応変に対応。このようにみると、いわばジェーンは秀才型であるのに対して、ジョンは天才型……？

2人とも孤独……？

ウラ稼業において、ジョンは天才そしてジェーンは秀才だが、こんな秘密をもった人間が本来孤独であるのは当然。また仕事も、ジョンは「スマス設計管理事務所」の共同経営者のひとりで、一流の建築業者であり、ジェーンはコンピューターシステム会社「i-テンプ」の優秀なプログラマーで、ウォール街に拠点を置く国際企業、トリプル・クリック社のサーバーに問題が発生したときのために24時間体制で待機しているらしい。

しかし、それはあくまでカムフラージュにすぎないから、このオモテの仕事上の親友などできるはずがない。

そのうえこの2人は、互いに自分のウラ稼業を秘密にしている「仮面夫婦」だから、互いに心の悩みを打ち明けることなどできるはずもない。したがって、ジョンもジェーンも友人が少なく、孤独……？

ジョンとジェーンの親友は……？

ジョンの唯一人の親友は同じ稼業のエディ（ヴィンス・ヴォーン）。エディはジョンの突然の結婚にも当然反対したし、ジェーンを殺すしかジョンの生き残りの道がないことが明らかになった時は、躊躇なくそれを実行するよう勧めてくれるホントにいい奴……？

他方、ジェーンの唯一人の親友ジャスミン（ケリー・ワシントン）も、常にジ

エンを助けてくれているが、ジョンとの関係については批判的……？ もっともこちらは女同士だから（？）、ジョンとエディほど腹を割った話し合いはされていないよう……？ エディもジャスミンもこの映画ではともにジョンとジェーンの引き立て役だが、うまくそれに徹しているところはさすが……。

キーマンは1人の若造……？

この映画は、その役割においてもスクリーン上への登場時間においても、2人の主人公と2人の共演者をバランスよく配置しているが、その真ん中であって物語を組み立てるキーマンになるのが、1人の若造であるベンジャミン・ダンズ（アダム・プロディ）。登場時間も少なくセリフも少ないが、このベンジャミンの存在がなければ、ジョンとジェーンとの本戦における「出会い」もなければ、「対決」も、そして「融和」も「復活」もないのだから、この人物の果たす役割にも十分注目を……。

見どころその1 迫力あるダンス

美男・美女を起用したこの映画の見どころの1つは、2つのダンスシーン。その1つは映画の序盤、不純な動機（？）で知り合った2人が意気投合し、酒をたらふく飲みながら展開される情熱的なダンス。そしてもう1つは、互いの本性がバレた後、互いにプロとして相手を殺さなければならないと自覚しつつ展開される「死のダンス」。両者とも迫力があるうえ、かなりエロチックでユニーク（？）だから、十分堪能しよう……。

見どころその2 迫力ある銃撃戦

2人の「夫婦喧嘩」は次第にエスカレート。しかし、一方が他方をホントに殺してしまったのではそこでジ・エンドとなってしまう、映画が成り立たなくなるのは当然。したがってストーリーは、一方で次第に複雑の度を増していく（？）とともに、夫婦喧嘩も次第に第三者を巻き込んでエスカレートしていくことに……。その結果、普通の夫婦喧嘩では到底考えられないハデな銃撃戦が……。

『トロイ』（04年）のブラッド・ピットも、『トゥームレイダー』（01年）のアン

ジェリーナ・ジョリーもアクション大好き俳優だが、この映画ではさらにそれが進化した。すなわちパンフによれば、「軍の特別任務や対テロリズム用の戦術トレーニング」を学び、「最終的には、2人とも動いたままで複数の標的を撃てるようになるまでに進歩した」とのことだから、さすが2人とも一流俳優。

さてその成果のほどは……？ この手のハリウッド映画の銃撃戦についてはあまり難しく考えず、とにかくその華麗さ(?)をたっぷり楽しもう……。

久しぶりにスカッと……

今年の夏は『スターウォーズ エピソード3』が予想どおり大ヒットし約100億円の興行収入をあげたものの、それに続く『宇宙戦争』は60億円程度だったし、全体的にハリウッド映画は不振。その原因はいつも私が言うように、リメイク版やアメリカンコミック頼り、そしてシリーズモノに頼って新企画が出せないせい。

そういう観点からは、この映画は単純なストーリー(?)ながら、観客に魅せるポイントをきっちりと押さえた立派な作品。2時間の枠内ギリギリの1時間58分にまとめたところも、観客を楽しませようという観点から立派なもの。

とにかくこれなら、料金を払っても2時間たっぷりハリウッド映画の良さを楽しめることまちがいなし。久しぶりにスカッとしたハリウッド映画を堪能できるのでは……？

2005(平成17)年9月9日記